



女にょ

教員にん
二人
乙六

教中女房

形氣

四編

上卷

山東庵作

曲豆 國画

戊申新春

錦襦堂毒梓



○女房形氣四編上冊

かろて人の女房とて

姑とて和漢

古今の通解

るり然れども

日本ハ君子國

るる由來日本紀

古事記を不たえたる神代

やたのちも神とされたるをい

らあきりたる一妻の國の

しみにた得姑あり漢の高祖

の本妻呂后が腹小男子一人

あり妾戚夫人も男子一人あり高祖戚夫人をも

たるをいへてあつたゆえんとさけふ事あるは内



弘化四年丁未夏五月稿本
今年晚秋上梓發販



あはれ亭の主人は、この朝も、
 朝の光を浴びて、
 目を覚まして、
 顔を洗って、
 髪を束ね、
 大層な朝飯を、
 食べた。あはれ亭の、
 主人は、この朝も、
 朝の光を浴びて、
 目を覚まして、
 顔を洗って、
 髪を束ね、
 大層な朝飯を、
 食べた。



あはれ亭の主人は、この朝も、
 朝の光を浴びて、
 目を覚まして、
 顔を洗って、
 髪を束ね、
 大層な朝飯を、
 食べた。あはれ亭の、
 主人は、この朝も、
 朝の光を浴びて、
 目を覚まして、
 顔を洗って、
 髪を束ね、
 大層な朝飯を、
 食べた。

あはれ亭



かみかみ
はるかたも
あつむも

廿年(二十)の
二入(二入)の
十(十)の

①かみかみの
はるかたの
あつむの
はるかたの
あつむの
はるかたの
あつむの

②あつむの
はるかたの
あつむの
はるかたの
あつむの
はるかたの
あつむの
はるかたの



牙(牙)
五(五)

はるかたの
あつむの
はるかたの
あつむの

二(二)

三(三)

③あつむの
はるかたの
あつむの
はるかたの
あつむの
はるかたの
あつむの
はるかたの

④あつむの
はるかたの
あつむの
はるかたの
あつむの
はるかたの
あつむの
はるかたの

あつむの
はるかたの
あつむの
はるかたの
あつむの
はるかたの
あつむの
はるかたの

嘉永三庚戌春新版目錄

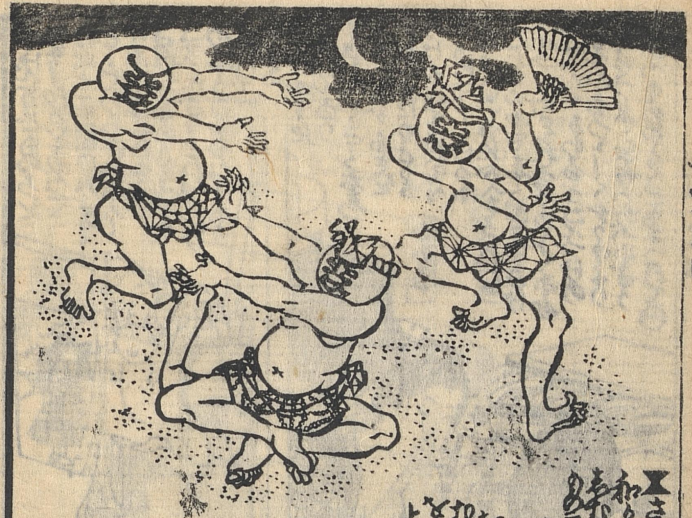
京山作
品定五人娘 初編二編

京山作 豊国画
雛鶴笹湯壽 全二冊

同画
教草女房形氣 八編九編

同画
ちの塚物ころろ 三編大尾

一立斎廣重画
新撰狂句會 初篇二篇



此書の林代のむらゝあつちるさ
百手おききおのむらゝあつちるさ
おききおのむらゝあつちるさ
おききおのむらゝあつちるさ
おききおのむらゝあつちるさ
おききおのむらゝあつちるさ
おききおのむらゝあつちるさ
おききおのむらゝあつちるさ
おききおのむらゝあつちるさ
おききおのむらゝあつちるさ
おききおのむらゝあつちるさ
おききおのむらゝあつちるさ

歴世女裝考 四卷上梓
京山人百樹著

源氏雨後のあさきめおのむらゝあつちるさ
おききおのむらゝあつちるさ
おききおのむらゝあつちるさ
おききおのむらゝあつちるさ
おききおのむらゝあつちるさ
おききおのむらゝあつちるさ
おききおのむらゝあつちるさ
おききおのむらゝあつちるさ
おききおのむらゝあつちるさ
おききおのむらゝあつちるさ
おききおのむらゝあつちるさ
おききおのむらゝあつちるさ

玉川亭調布作
稲妻紙 初編ヨリ 五編マテ

好古斎主人作
如手本忠臣蔵 二冊 芳扁画

江戸中橋廣小路
山田屋庄兵衛板

